

重点施策別評価表

1-1 図書館資料の充実

予算の適正な執行を行い、資料の刷新を図って、市民満足度を高める

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館資料の充実							4.5	
市民一人当たり資料点数	点	3.7	3.74	101	悪い	拡大・充実	5	
貸出点数	点	1,000,000	926,063	93	良い	拡大・充実	4	
子供向け資料	点	2,750	2,915	106	良い	継続・維持	5	
関心が高い分野の資料	点	7,000	7,538	108	良い	継続・維持	5	
参考図書資料	点	150	184	123	良い	継続・維持	5	
NPO雑誌寄贈サポート	種	35	27	77	やや悪い	見直し	3	

★自己評価

○評価の理由

市民一人当たりの蔵書数は目標に達しているので5と評価した。
 貸出点数は、目標には届かないと思われるので4と評価した。
 子ども向け資料、市民が関心が高い分野の資料購入数は目標に達しているので5と評価した。
 参考図書資料の購入数は目標を超えて購入できているので5と評価した。
 NPO雑誌寄贈サポート事業は、新規開拓ができなかったため、目標種類数に達しないので3と評価した。
 NPO雑誌寄贈サポート事業は、事務量が多いため、より効率的な運営方法を考える必要があるため、「見直し」とした。

○課題

資料蔵書数は、購入費の低減とキャパシティの問題から今後もあまり増えないので、予算獲得と保管場所の整備が今後も大きな課題で、新規図書室開設が必要である。
 貸出点数が伸びないのは読みたい本がないだけでなく、読みたい本が探せないなどの問題がないかどうか見直すことが必要である。
 予算の範囲内で、市民ニーズにあった蔵書構成ができていない。
 次世代を担う子供たちに必要な資料を提供できるように児童書の充実が課題である。
 参考資料購入点数は増えたが、高価な資料はなかなか更新も購入もできないままであるため、特化した予算の獲得が必要である。
 NPO雑誌寄贈サポート事業は、協賛企業を積極的に募るPRが不足している。
 NPO雑誌寄贈サポート事業は、継続が不安定で、安定的な雑誌の提供ができていないのが課題である。
 予約の入っている図書や視聴覚資料(特にDVD)が見つからず提供できないことがある。
 DVDの貸出方法の再検討(盗難防止のため)
 ICタグの導入など、資料管理体制の見直しが必要である。

○次年度への改善点

実施計画に保管場所についての検討も計画計上できるように研究をすすめる。
 寄贈図書で、所蔵本より状態の良いものはできるだけ入れ替えを行い、利用者になるべくきれいな状態のものを提供する。
 参考資料の早期購入をすすめ、早期に目標を達成するとともに、年度末にも再購入の機会を検討できるようにする。
 NPO雑誌寄贈サポート事業について、仲介役のNPO法人と図書館の各々の役割分担を再確認する。
 NPO雑誌寄贈サポート事業は、市内企業に対して積極的にPRをする。

★外部評価

○評価の理由

どの項目も概ね目標に達しているので高く評価して良いと思われる。

NPO雑誌寄贈サポート事業については、目標の企業数に達しなかったため、雑誌種類数も目標以下であり、評価は妥当だと思われる。

○課題

図書購入については、目標設定が重要であり、目標達成のためには限られた予算の中でどのような資料を購入すべきか市民のニーズの把握の仕方を十分検討すべきである。

図書等の配架の仕方が市民にわかりにくいところがあるので、案内図等を館内に掲示することやOPACの所蔵資料リストにも工夫し、配架場所が十分わかるように改良すべきである。

雑誌寄贈サポート事業については、市民ボランティアの関わりについて検討すべきである。

重点施策別評価表

1-2 魅力ある図書館づくり

全年齢層へのサービスの充実を目指し、利用促進につながる事業を実施する

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
魅力ある図書館づくり							3.9	
司書職員数	人	9	9	100	良い	継続・維持	5	
大活字本購入数	点	250	81	32	良い	継続・維持	3	
録音資料作成数	点	3	1	33	悪い	継続・維持	2	
ボランティア事業協力の有無		有	有	有	有	拡大・充実	5	
おはなし会回数	回	350	360	103	良い	継続・維持	5	
ボランティア研修会	回	1	0	0	良い	拡大・充実	1	
人形劇	人	80	73	91	良い	継続・維持	4	
斎藤 史講演会	人	80	55	69	良い	見直し	3	
石川信雄講座	延べ人数	200	103	52	良い	見直し	2	
夜間開館入館者数	人/日	200	202	101	良い	継続・維持	5	
閲覧席利用席数	席/日	20	18	90	良い	見直し	4	
入館者数	人	700,000	692,379	99	良い	拡大・充実	5	
ウィークエンドシネマ	回	24	25	104	良い	継続・維持	5	
図書館評価の実施と公表		実施	実施予定	—	やや悪い	継続・維持	5	

★自己評価

司書資格職員数は講習受講によって1名増が達成できたので5と評価した。

大活字本の購入による高齢者へのサービスは、目標を達成できないので3と評価した。

大活字本は2社しか出版していないため、購入数の増加は難しい。

録音資料の作成は、6月に依頼があったが、ページ数が多く、図表もあり、作成に時間を要してこの作品のみとなったため、2と評価した。

ボランティアの事業協力は順調に実施されているので5と評価した。

おはなし会の回数は目標に達しているので5と評価した。

ボランティア研修会は実施されていないので低い評価にならざるを得ない。

人形劇はPR不足で参加者数が伸びなかったため4と評価した。

短歌に関する講演会や講座は出席者に偏りが見られ、参加者数もかなり少ないので低い評価とした。

夜間入館者数は目標に達しているので5と評価した。

閲覧席利用席数は目標に達していないので4と評価した。

ウィークエンドシネマは目標回数に達しているため5と評価した。

図書館評価の実施と公表は初年度であったが、順調に実施でき、公表もHPで行えたので5と評価した。

○課題

平成27年度司書資格取得講習会費用が当初予算査定されなかったのではどのように司書資格者を増やすことができるかが課題である。

分館からの司書資格講習受講が職員配置から無理がある。

大活字本や録音資料作成の予算執行が年度末近くになる。

大活字本の書架が少ない。

録音資料の作成にはかなり月日がかかるため、目標設定してもクリアできない年もあるので、予算の有効な活用とPR活動が必要である。

録音資料の作成の依頼の仕方が課題である。(連続して作成依頼できるような準備を行う。)

おはなし会に参加するボランティアが不足し、ベテランが多くなり、後継者が不足している。

ボランティアの育成が課題である。

ボランティア研修会費用は当初予算査定されていないので創意工夫して費用のかからない研修会の実施ができるかどうか課題である。

人形劇は同じ劇団で続けてきたので、内容や劇団についての再検討が必要かもしれない。

人形劇は予算の都合で別の劇団を探す必要がある。

短歌に関する事業も数年継続してきたので分野や講座の運営方法等の見直しが必要である。

短歌の講座は参加者が固定化していて新たな参加者が少ないので結果として参加者が減少している。

夜間開館利用のPRが不足している。

閲覧席利用席数にはかなり波があるので、利用状況の分析を行って利用促進をどのように図るかが課題である。

閲覧席利用時間の再検討が必要である。

ウィークエンドシネマは定着した事業になっているので今後はさらなる利用促進策の実施が課題である。

社会教育施設3施設で策定した点検評価システムについては、もうしばらく精度をあげられるように内容を検討することが必要である。

蔵書数では魅力を増やすことが難しいのでどこに魅力のポイントを見出すかが課題である。

○次年度への改善点

入間市立図書館として実施していく必要がある「魅力ある事業」は何なのかという考え方をまとめておく。

大活字本を計画的に購入する。

大活字本の全館での入れ替えを今後も継続して実施する。

視覚障害者で、図書館利用されている方に積極的に録音資料作成及び提供についてPRする。

おはなし会の内容を充実させる。

ボランティアに対する研修体制を確立し、確実に予算化できるようにする。

研修に適する講師の発掘を行い、次年度以降依頼できるように準備する。

短歌以外のジャンルでの講座、講演会の実施を早めに検討し、市民との協働での事業実施ができるようにする。

より多くの方に講座に参加いただくように連続講座は1年度内で終了するように企画する。

講座は市民が参加しやすいように、内容、日程、回数を十分に考慮して開催する。

講座の内容は事前に講師と図書館が打ち合わせを行って実施する。

入館者数が館によって差があるので入館者の少ない館の入館者数をいかに増やすかが課題である。

夜間閲覧席利用については費用対効果の点を考慮し、廃止すべきかどうか検討する。

社会教育施設3施設の点検評価システムをさらに良いものに上げるための研究を早期に行う。

★外部評価

○評価の理由

大活字本の購入数や録音資料作成数は、目標に達していないため評価が低いのはやむを得ない。

(大活字本の出版数が限定されていることや録音資料の作成が視覚障害者からの依頼状況に左右されるため)

司書職員数が増えたことは喜ばしいことではあるが、司書職員を継続的に確保できてはじめて評価できるものと考ええる。

人形劇については、既存の劇団を選択し、経費をかけて実施しているが、劇団によってはボランティアとして活動しているところもあるので、経費をかけずに実施できればさらに良い評価につながると思われる。

閲覧席開放事業は、実績から毎年度実施すべき事業かどうか十分検討しなければならない利用状況かと思われる。

○課題

司書職員の確保については、一般職員のうち司書資格を有する職員の活用方法を検討すべきである。

知識や経験の浅い職員には十分な研修の機会を与え、市民の相談業務に対応すべきである。

おはなし会の実施回数は目標を上回っているが、地域的には金子地区の子どもが減少傾向で、おはなし会の参加者も減っているため、回数だけではなく、内容の再検討なども必要かと思われる。

重点施策別評価表

1-3 学校や関係各所・課との連携 市民の読書活動支援のために学校や関係各所と連携を強化し、ボランティアを支援する

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
学校、関係各所・課との連携							4.7	
図書館見学	校、人	16校、1,370人	16校、1,305人	100	非常に良い	継続、維持	5	
利用教室	校、人	16校、1,335人	16校、1,277人	100	非常に良い	継続、維持	5	
プチ一日図書館員	回、人	8回、96人	8回、92人	96	良い	拡大、充実	4	
学校図書館ボランティア研修会	回、人	2回、54人	2回、68人	126	良い	継続、維持	5	
移動図書館学校巡回	学校数	8	8	100	非常に良い	継続、維持	5	
配本サービス	箇所数	20	31	155	非常に良い	拡大、充実	5	
庁内イベント協力	箇所数	4	5	125	良い	継続、維持	5	
ブックスタート	回	12	12	100	やや悪い	拡大、充実	5	
夏休み臨時学習室	日・人	10日・50人	10日・10人	20	悪い	見直し	2	
おとなのための朗読会	回・人	3回・100人	3回・171人	171	良い	見直し	5	
古典朗読会	回	12	12	100	良い	継続、維持	5	
からくり絵本作り教室	回、人	1回、50人	1回、58人	116	良い	継続、維持	5	

★自己評価

○評価の理由

学校連携の見学、利用教室は図書館を知ってもらうための良い事業で、全校で実施できたので5と評価した。
 プチ一日図書館員は、ほぼ目標を達したが直前のキャンセル等もあり4と評価した。
 見学、利用教室、プチ1日図書館員は、図書館の利用促進を図れるので非常に良い評価とした。
 学校図書館支援事業であるボランティア研修会には目標以上の参加者があったので5と評価した。
 移動図書館の学校巡回は現在の所28年度までの期限付きではあるが、効率の良い事業で、目標学校数をクリアしているので5と評価した。
 配本サービスは目標を大きく上回って実施できたので5と評価した。
 配本サービスは定期的な学童保育室へのサービスも不特定の学校へのサービスも昨年度より増加したので5と評価した。
 庁内イベント協力は予定通りの協力数を達成したので5と評価した。
 ブックスタートは、実施回数としては目標に達しているので5と評価した。
 夏休み臨時学習室は、前年度より日数や安全面に配慮したがあまり利用がされなかったので2と評価した。
 おとなのための朗読会、古典朗読会、工作教室はボランティアの協力による共催事業であるが、それぞれ目標値を達成したので5と評価した。
 おとなのための朗読会は、クオリティ向上のため回数を減らしたいとの要望が団体から出されているので「見直し」とした。
 古典の会は、団体の協力で利用者も増え、定着してきた感があり、目標達成できたので5と評価した。(参加者は12人程度でいっぱい)

○課題

学校連携事業は、事業後の児童の図書館利用にどのようにつなげるか、またどのような事業で利用促進を図るかが課題である。

今後はフォローアップ事業の検討も必要である。

今後、学校連携事業等を本館で集約して実施するのか、指定管理者になったあとも館ごとに実施するのかの調整が必要である。

プチ一日図書館員は現在本館のみで実施しているが、今後は分館への拡大が課題である。

移動図書館は期限付きサービスなので、学校巡回も含めた今後の代替サービスの検討が急務である。

移動図書館配車時間に児童が利用できない学校がある。

配本サービスの日程調整が必要な点が課題である。

配本サービスの職員負担が大きい。

平和祈念資料展は貸出も少ないので、費用対効果の面から閲覧のみとするかどうかの検討が必要である。

平和祈念資料展の日程や時間帯の再検討が必要である。

ブックスタートに関する担当課との協議ははじめられたが、庁内調整会議開催には至らなかったものでどのように庁内連携を図って本来のブックスタート事業をスタートさせるかが課題である。

ブックスタート事業のための庁内の共通認識をいかにして図っていくかが課題である。

ブックスタートのための児童書購入予算確保が課題である。

藤沢分館の夏休みの利用に関する公民館との連携協議の継続と効果的な施設利用方法の検討が課題である。

共催事業の発展のしかたを図書館としてどのように考えてサポートするかが課題である。

○次年度への改善点

プチ一日図書館員事業の分館実施について早期に再検討する。

プチ1日図書館員は多くの子どもに図書館を知ってもらうように初参加の子どもを優先する。

ブックスタート事業の市としての使命を明確にし、実施計画等を通じて予算確保に努める。

ブックスタート事業は、少しでも落ち着いて内容を理解できるような環境づくりをする。

ブックスタート事業の際配布する資料の内容を見直しする。

夏休みの図書館利用の実態把握を行い、藤沢のみならず、図書館等の効果的な活用方法を市民にPRする。

夏休み臨時学習室は、廃止も含めて検討する。

移動図書館の継続が可能かどうかの協議をする。

配本サービスの日程をサービスを受ける側に周知徹底させる。

配本サービスのルールが守られないことがあるのでルールを学校に改めて周知する。

★外部評価

○評価の理由

ブックスタート事業は、目標設定内容から5と評価しているが、事業効率性が良くないことから十分内容を見直すべきで、評価にあらわれない課題等が多くあるようなので、目標設定も含めて再検討が必要で、もう少し低い評価にすべきである。

「おとなのための朗読会」は評価5でありながら、今後の方向性が「見直し」となっており、自己評価内容から回数を見直す方向性が打出されているのでやむを得ないと思われる。

配本サービスは、市民や団体に大変喜ばれているサービスで、素晴らしいサービスであると評価できる。

藤沢分館の夏の臨時学習室は、利用状況からも低い評価はやむを得ないと思われる。

○課題

配本サービスの職員にかかる負担を減らすように、配本される側と双方で協力する体制づくりをしていくべきである。

現在のブックスタート事業は、子育て支援事業としては十分ではないので、庁内での協力体制をつくって課題解決に努める必要がある。

重点施策別評価表

2-1 図書館網の整備

移動図書館運営の見直しと代替案である分室網の整備を促進する

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館網の整備							2.5	
システムネットワークダウン数	回	0	1	—	良い	拡大、充実	4	
ダイヤ4市相互利用者数5%増	人	41,418	43,889	106	良い	継続、維持	5	
図書館部会会議開催数	回	4	3	75	良い	継続、維持	3	
黒須公民館協議		実施	未実施	0	悪い	見直し	1	
東金子公民館協議		実施	未実施	0	悪い	見直し	1	
学校図書館とのシステム連携検討会議		実施	未実施	0	やや悪い	見直し	1	

★自己評価

○評価の理由

システムネットワークについては、産業文化センターの点検による停電に関係するものでやむを得ないもので、その他は順調であったのでトータルとしてのダウンではないので4と評価した。

システムネットワークのダウンは1回あったが、復旧も早く、利用者への影響はほとんどなかったため4と評価した。

システムは分館の処理速度が低下することがあるため4と評価した。

ダイヤ4市相互利用は種々の理由(狭山市立中央図書館の工事による休館他)もあって利用が伸び、目標を上回ったので5と評価した。

図書館間の情報交換の場でもある図書館部会会議は開催数が目標に達さなかったため3と評価した。

公民館協議は今年度も進展しなかったため1と評価とした。

学校図書館とのシステム連携検討会議は公式には開催できなかったため低い評価としたが担当者レベルでの協議はすすめられた。

○課題

サーバーがダウンしたときの復旧手順を確認しておくことが課題である。

システムのバージョンアップやメンテナンス時に正常な部分に影響を及ぼすことがある。

移動図書館の代替サービスを再検討することが課題である。

学校図書館との連携をすすめるための研究や現状把握を進めることが課題である。

学校長で組織する学校図書館部会との連携ができていないのが課題である。

分室計画をどういう結論を出すのが課題である。

黒須、東金子分室の開室が課題である。

分室構想は、公共施設マネジメントシステムの進行を見つつ、乗り遅れないようにする必要がある。

分室開室が遅れているため、分室用に準備している図書等が開室時には陳腐化している可能性がある。

学校連携システムの本当の必要性を学校側と確認する必要がある。

学校連携システムは双方にメリットがあるのか、デメリットはどうか、人的資源を割けるのか、抜本的な見直しが必要である。

平成28年度以降の図書館システム更新に学校連携システムをどのように反映させるかが課題である。

○次年度への改善点

移動図書館の代替サービスとして検討している分室整備が頓挫しているため、あらゆる方法を講じても協議を早期に再開するように働きかける。

年度当初に校長会を通じて、学校図書館部会との連携のための会議開催を検討する。

学校連携システムについての学校側の意向を確認する。

学校連携システム導入図書館の実態調査を行う。

公民館との協議を実施し、分室としての方向性を再確認する。

★外部評価

○評価の理由

分室整備については、協議が進まない状況が続いているため、実現が難しいかもしれないので低い評価は仕方がない。

○課題

分室の利用方法について、予約本の受取り、返却場所として使うことも含めて見直すべきである。

現在、平成28年度末で廃止予定の移動図書館車によるサービス内容を、移動図書館車を利用した配本サービスへの変更を検討するなどして、使用継続について検討すべきである。(高齢者にとっては最善の方法であり、現実の利用も高齢者が多いため)

重点施策別評価表
設備や内装等の計画的な改修等を行い、快適な読書環境を確保する

2-2 図書館施設の整備

項 目	単位	26年度目標	26年度実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
図書館施設の整備							5	
金子カーテンクリーニング		実施	実施	100	良い	継続、維持	5	
本館CD架購入	台	1	1	100	良い	拡大、充実	5	

★自己評価

○評価の理由

整備項目2点ともに早期に実施でき、予算を有効に活用し、市民の利便性向上につながったので5と評価した。
CD、DVDの配架場所が明確になり、利用促進につながったので5と評価した。

○課題

備品整備等の予算確保が大変厳しい状況であるため、計画的な整備が進められないことが課題である。
一般や児童の書架もかなり劣化しているので更新が必要である。
さらにCD架を購入し、増やしたいがスペースが限られている。
分館を指定管理に引き渡すまでにどのような状態で引き渡す必要があるか検討する。
高齢者の居場所としてのスペースや設備の拡充が必要である。
館内で視聴覚資料を再生し、視聴できる機器を準備することが西武分館以外はできていない。
※トイレの悪臭が改善されていない。
施設の突発的な大修繕の際の対応策が必要である。

○次年度への改善点

必要不可欠な備品(一般用、児童用書架等)の更新について十分調査研究し、予算獲得のため、早期に準備し、実施計画等へ計画計上する。
早急に書架を入れ替え、利用者の安全を確保するとともに、美しい館内環境を整える。
金子のカーテンクリーニングは定期的に行う必要があるので予算確保に努める。

★外部評価

○評価の理由

自己評価のとおりで良いと思われる。

○課題

図書館各館の老朽化も進行しているため、計画的な整備と不具合箇所の早急な改修ができるように準備すべきである。

重点施策別評価表

3-1 ホームページの充実

地域情報拠点施設としての役割を果たし、施設の意義を高める

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
ホームページの充実							3.5	
年間アクセス数	回	883,600	902,075	102	非常に良い	拡大、充実	5	
ホームページメンテナンス	回	12	6	50	悪い	継続、維持	2	

★自己評価

○評価の理由

市民のホームページへのアクセス数は順調に伸び、目標数に達しているため5と評価した。

ホームページの情報等が陳腐化しないように常にホームページのメンテナンスが行われるべきだが、1か月に1回の目標も達成できていないので低い評価とした。

ホームページの修正プログラムの作成に時間がかかっているため2と評価した。

○課題

ホームページ担当者が専任ではないため、他の業務のすきままで実施しなければならないことが課題である。

ホームページの細かな部分の変更に時間がかかる。

次期システム更新に向けてホームページの調査研究が必要である。

○次年度への改善点

業務分担の見直しやホームページメンテナンス項目の洗い出しを行い、担当者でなくてもメンテナンスに携われるように業務改善する。

情報の発信回数を増やし、市民にわかりやすいホームページを作る。

メンテナンス性を向上できる運用方法を検討する。

ホームページの内容に気を配るとともに、システム保守会社への働きかけを行い、回数多くメンテナンスを行ってもらえるようにし、職員が情報が最新かどうか確認を行う。

★外部評価

○評価の理由

ホームページによる情報提供は概ね市民に浸透していると思われるので全体としては高い評価でよいと思われる。

○課題

たまに情報が古くなっているときが見かけられるので、ホームページの定期的な更新作業の実施を行うべきである。

重点施策別評価表

3-2 各種メディアの活用

広報紙等により地域情報や図書館情報を早く、正確に提供する

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
各種メディアの活用							5	
FM入間本のある暮らし出演	回	50	51	102	良い	拡大、充実	5	
入間CATVへの出演	回	2	7	350	良い	拡大、充実	5	

★自己評価

○評価の理由

各種メディアを有効活用したPR等ができ、実績も目標回数をはるかに超えているので高い評価とした。
FMいるま、入間CATVへの出演は定期的に行っているので5と評価した。

○課題

番組が1番組に限定されているので、その他の番組への出演努力をしていないことが課題である。
情報がどれだけの視聴者に伝わっているかがわからない。
市民意識調査からも視聴者が少ない。
FM茶笛への出演は効果と準備に係る時間を考慮し、出演回数を考える必要がある。
番組の中の1コーナーなので、市民に良く知られていない。

○次年度への改善点

各種メディアと相互協力体制を確立し、できるだけ広く、多くの番組に出演し、市民への図書館のPRの場にしていくため
メディアとの協議の場を設ける
視聴した方へのプレゼント等の工夫をし、視聴率アップを目指す。
事業に参加した方に必ずアンケートを実施し、この事業を何で知ったか等を尋ね、状況を把握する。
他のメディアを使った広報宣伝を検討する。
年齢層を把握し、収録内容をリスナーに合ったものに変更する。
広報の内容等をさらに魅力のあるものにする。
FM入間の本のあるくらしで紹介する本のテーマを明確にし、より充実した内容にする。

★外部評価

○評価の理由

地元メディアを効果的に利用して情報提供しているので高い評価でよいと思われる。

○課題

提供している情報等が市民に十分伝達されるようにPR方法を検討すべきである。

市民への浸透度合いを確認する作業等も行うべきである。

重点施策別評価表

3-3 自動音声応答システム

デジタルデパイド解消のため情報弱者への情報提供を積極的に行う

項目	単位	26年度目標	達成値	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
自動音声応答システム							4	
利用件数	件	7,700	6,142	80	やや悪い	継続、維持	4	

★自己評価

○評価の理由
 外部評価によって、名称も変更したが、利用方法が難しい点があり、利用件数が目標に達しなかったので4と評価した。

○課題
 情報弱者のためのツールとして欠かせないものであるのに、利用が進まないのはシステムの難解な点にあると思われるので、システムの中身を見直すことが課題である。
 システム利用の有効性を広くPRするための方法について検討することが課題である。
 最終確認までに時間がかかり、電話代もかかる。
 経費面で見直す必要がある。
 利用者へのPRとシステムの簡略化が課題である。
 このシステムを必要としている層はどこなのか。その中で利用率はどの程度かを把握する必要がある。
 情報弱者にとってこのシステムが相応しいかどうか考える必要がある。
 図書の長いタイトルや数字が聞き取りにくい。

○次年度への改善点
 システム保守業者と早期に協議し、簡素化できるところは簡素化し、より分かりやすいシステムに変更する。
 廃止は難しいが内容等の検討はする必要がある。
 他市町村での利用状況を調査し、今後の運用を検討する。
 スマートフォン等の普及によりこのサービスを廃止してもよいかどうか検討する。

★外部評価

○評価の理由

利用数が目標に達していないため4の評価はやむを得ない。

○課題

名称の変更後の利用状況の変化が十分見えていない。

システムそのものの存在をさらに市民にPRすべきである。

内容の再検討を早急に行い、市民にわかりやすいシステムにしていくべきである。

重点施策別評価表

3-4 インターネット接続端末の活用 インターネット接続端末に有料データベースを整備し、利用促進を図る。

項目	単位	26年度目標	1月末実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
インターネット接続端末							5	
利用件数	件	9,300	9,062	97	良い	拡大、充実	5	

★自己評価

○評価の理由
 読書新聞データベースの利用が可能になり、利用件数はほぼ目標値に達したので5と評価した。

○課題
 予算の有効活用のため、読書新聞データベースの利用についてPRを行うことが課題である。
 利用の多くが特定の個人利用に偏っているため、占有している様相も見られるので本来の調査、研究のための利用が中心になるような働きかけが必要である。(機械の安定的な使用のため)
 利用者用パソコンの設定で制限が多く、そのことが機械トラブルになることが多い。
 読書新聞データベース以外のインターネットのページプリントアウトができない。
 読書新聞データベースアカウントが本館に限定されているため、分館では積極的にPRしにくい。

○次年度への改善点
 読書新聞データベースの検索のできることを例示等して、利用者へ利用を呼び掛ける。
 特定の個人利用が機械の安定的な使用を阻害しないよう指導する。
 利用者用パソコンをメンテナンスする。
 データベースでの検索が有効なレファレンス等は、データベースでの検索を積極的に提案していきたい。

★外部評価

○評価の理由

インターネット接続端末の市民利用は目標に達しているので高い評価で良いが、新たにはじめた読書新聞データベースの利用数の統計なども用意しておくべきかと思われる。この部分の評価は統計等がないので評価できない。

○課題

読書新聞データベース利用のための市民向けPR方法を再検討すべきである。

重点施策別評価表

3-5 メールによる情報提供

メールアドレス登録者に最新の情報を提供する

項目	単位	26年度目標	1月末実績	達成率	事業効率性	今後の方向性	自己評価	外部評価
メール通知者数							1	
年間メール通知数	件	3,000	84	3	非常に良い	拡大、充実	1	

★自己評価

○評価の理由

ツールとしては非常に便利であるのに登録者数が目標をはるかに下回っているので最低の評価とした。

○課題

登録方法のPRが足りないことが課題である。

利用者本人の意志に左右されるため、便利さをどのようにシステムから伝えるのかができていないことが課題である。

今後どのように登録者を増やすかが課題である。

ホームページに新サービスのお知らせを継続して掲載する。

定期的に情報発信する。

図書館でツイッターアカウントを取得して情報を流すので十分な気もする。逆に目新しさもある。メール配信の登録してくれる利用者層なら、ツイッター利用者層も近いのでは。公民館や生涯学習課と共催でツイッター講座を行う手もある。

その場合も現在のメール配信内容では意味がない。コンテンツの差別化が必要である。

○次年度への改善点

登録方法について、システム保守業者と協議し、利便性がアピールできる流れをホームページ上に作り上げる。

図書館の行事などのお知らせだけでなく、プラスアルファのお得情報など魅力あるものにする。

★外部評価

○評価の理由

メール登録者数に比べて、サービス利用者数が大変少ないので最低の評価でやむを得ないと思われる。

○課題

新たなサービスとして提供している内容ではあるが、予約資料の受取のためにメールアドレスを登録している人へのPR方法が十分ではなく、また、サービスの利用方法等が十分理解されていないと思われる。